

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

平成30年度 森林・林業交流研究発表会の開催

【技術普及課】

11月20日から21日の2日間にわたり、平成30年度森林・林業交流研究発表会を開催しました。この研究発表会は、昭和43年度に当局職員の「業務研究発表会」としてスタートし、平成8年度からは当局職員以外の行政や試験研究機関などにも参加いただき、平成12年度以降は、「森林・林業交流研究発表会」の名称となりました。また、平成14年度からは、高等学校等教育機関からも参加いただくなど、現在では、地域における様々な連携や最先端技術に関する内容もあり、多様かつ新鮮な視点からの発表の場となっています。

今年は、審査対象とした22課題の他、審査対象外の3課題の計25課題が発表され、当局職員以外に、初参加の京都府立久美浜高等学校など4校の高校生、高等専門学校の教授、各研究機関の研究員、行政関係や森林組合の職員等14機関・団体の生徒や職員等に発表いただきました。

今年の特徴は、ドローンや地上型三次元レーザースキャナシステムなど最新技術における森林・林業への活用に関する発表が多く行われたことです。また、ナラ枯れなど病虫害対策やシカ被害対策などを含めて、地域の課題やニーズを踏まえたテーマの発表が多く行われました。



高校生のみなさんによる発表



発表会場の様子

審査の結果、近畿中国森林管理局長賞には、兵庫森林管理署、広島北部森林管理署及び和歌山森林管理署の職員による発表課題が選ばれました。その他の賞も含めて、受賞した課題は、次のとおりです。

◆近畿中国森林管理局長賞◆



地上型三次元レーザースキャナシステムを用いた収穫調査の効率化の検証

(近畿中国森林管理局 兵庫森林管理署)

佐藤開 横山新樹

<喜びのコメント>

多くの方々にご協力頂いた研究課題がこのように評価されたことを、大変嬉しく思います。



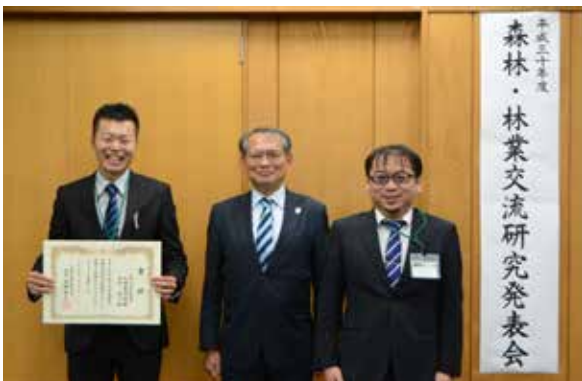
保育時期まで使用できる森林作業道のあり方について ～これまで作設した森林作業道のモニタリングから検証する～

(近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署)

藤本純一

<喜びのコメント>

うれしい受賞！です。森林技術指導官をはじめ、署内の皆様のご協力ありがとうございました。



シカ防護柵設置方法の工夫 ～低コストかつメンテナンスの省力化を目指して～

(近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署)

大井田明優 山口真一

<喜びのコメント>

受賞大変うれしいです。和歌山署の皆様、親身なご指導、ありがとうございました。

◆森林総合研究所関西支所長賞◆

国産材を使って元気な森を・パート2

～新建材 CLT 端材の利用～

(京都府立北桑田高等学校) 佐々木健人 竹田周平

野田卓穂 山口大介



各発表の要旨は、近畿中国森林管理局 HP に掲載しています。



◆林木育種センター関西育種場長賞◆

動画を活用した普及効果に関する考察

～「岡山甘栗」栽培を例に～

(岡山県農林水産総合センター森林研究所) 西山嘉寛



◆(一社) 日本森林技術協会理事長賞◆

コウヨウザン(早生樹)の導入に向けた取り組み

～コスト縮減に向けた可能性～

(森林整備センター中国四国整備局) 橋本直樹 湯浅崇大



◆(一財) 日本森林林業振興会会長賞◆

京都大阪所におけるドローン活用 of 取組について

～現場業務の効率化を目指して～

(近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所) 榎谷仁志



◆森林・林業交流研究発表会 審査委員長賞◆

京丹後市久美浜町における海岸マツ林再生を目指して

～6年間の取組報告～

(京都府立久美浜高等学校) 山口航輝 松田慎哉 大道錬一



緑をとりもどせ!

～生態系の多様性保全と土砂崩壊防止を目指して～

(鳥取県立智頭農林高等学校) 大谷将太郎 松本剛季



CT 器機を活用したこれからの森林管理

～地上型三次元レーザースキャナシステムの活用～

(近畿中国森林管理局 森林技術・支援センター) 屋森修一 阿部良文



これらのほか、審査対象外の特別発表として、京都市内での抵抗性アカマツ選抜の取組(林木育種センター関西育種場)や森林・林業へのドローンの活用(和歌山県及び上道キカイ株式会社、森林総合研究所)について、発表いただきました。発表いただいた皆様、ありがとうございました。この研究発表会を契機として、各取組がさらに進展することを祈念しています。

国有林野等所在市町村 連絡協議会の開催

【企画調整課】

11月6日（火）近畿中国森林管理局大会議室において、国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催しました。

この協議会は、地域社会と国有林野事業の連帯の強化を図り、もって地元農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的に各府県に設置されており、今回の連絡協議会では管内14協議会の代表者が一堂に会して情報提供や意見交換などを行いました。



連絡協議会の様子

林野庁から国有林野総合利用推進室長、山村振興・緑化推進室長が出席し、国有林野事業の主要な取組、森林経営管理法、平成31年度概算要求等の情報提供を行いました。



国有林野総合利用推進室長による情報提供

また、近畿中国森林管理局からは、平成30年度の重点取組事項と今年度に多発した自然災害のヘリコプター調査や災害調査の対応状況について情報提供しました。



会長（雲南市長）からもご提言をいただきました

意見交換では、森林共同施業団地において、国有林と民有林が連携し路網整備が進むことを期待する旨の発言がありました。

また、頻発する自然災害に対応するために治山事業等の予算確保やレーザー測量などを活用して山地災害の危険箇所を把握しデータベース化を図って欲しい、平成31年度から開始が予定されている新たな森林管理システムや森林環境譲与税（仮称）について、府県や市町村と連携し、よりよい制度となるよう支援して欲しい等の意見が上がりました。



熱心に行われた意見交換会（亀山市長）

今回の協議会で出された意見を踏まえて、より地域に貢献できる取組に努めてまいります。

優良職員を表彰 九州北部豪雨 「山地災害対策緊急展開チーム」

【企画調整課】

農林水産省では、毎年農林水産行政に顕著な業績を上げた職員等を表彰し、職員の士気高揚等を図ることとしており、今年度は、平成29年度の九州北部豪雨災害において、九州森林管理局と各森林管理局の治山土木技術職員で編成した「山地災害対策緊急展開チーム」が選定されました。

「山地災害対策緊急展開チーム」は福岡県からの要請を受けて、被害状況の現地調査や復旧工事の実施に向けた技術的な助言を行い、災害復旧工事等の早期実施に大きな役割を果たしたことが評価され、今回の表彰となりました。

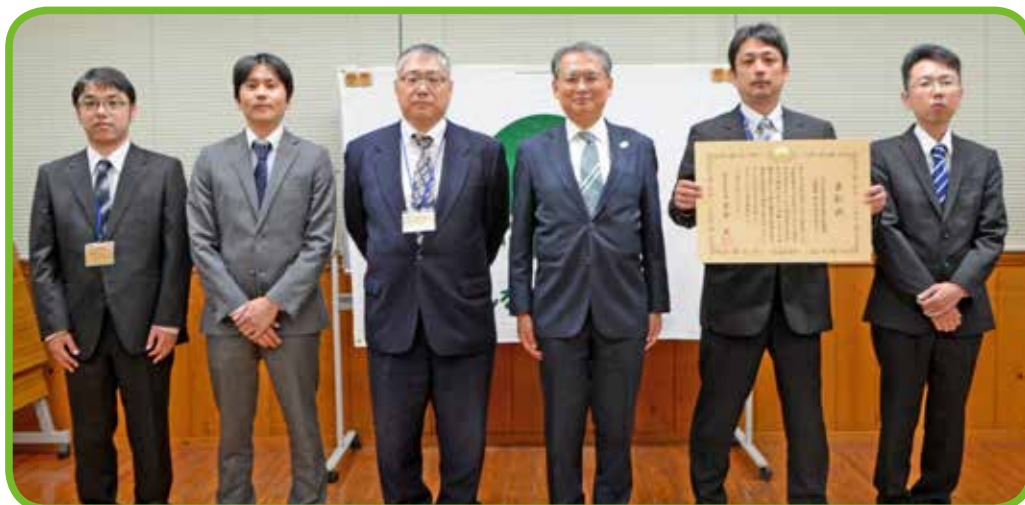
この「山地災害対策緊急展開チーム」には、近畿中国森林管理局から6名の職員を派遣しており、11月12日（月）に近畿中国森林管理局会議室において農林水産大臣からの表彰状の伝達式を執り行いました。

6名の皆さんは、昨年8月21日～9月1日までの2週間に「山地災害対策緊急展開チーム」のメンバーとして派遣され、福岡県朝倉市の民有林の荒廃状況の調査や復旧工法の検討、設計図面等の資料作成を支援しました。厳しい暑さの中での調査など苦労もありましたが、被災地の復旧に大いに貢献しました。

今年度は、当局管内においても、島根県西部地震、大阪北部地震、7月豪雨災害、台風第21号等の自然災害が多発してきましたが、各地で職員が災害対応に当たり、復旧に向けた事業を実施しているところです。引き続き、地域の安全・安心の確保に向けて懸命に取り組んでまいります。



チームを代表して表彰状を受ける伊與田さん



（表彰者紹介）左から

広島森林管理署 藤原 誠さん 治山課 石川 哲也さん 岡山森林管理署 竹内 健二さん 高野局長
滋賀森林管理署 伊與田 雄司さん 石川森林管理署 柿原 秀隆さん
（治山課 小崎 浩文さん（現 和歌山森林管理署））

シカ no 捕獲手法取組み 現地検討会

【岡山森林管理署】

11月14日（水）、津山市勝北文化センター及び津川山国有林において、「主伐・再造林に向けた新たなシカ捕獲手法の取組に係る現地検討会」を開催しました。

検討会の目的は、兵庫・鳥取・岡山森林管理署の三署による共通の課題を共有するとともに、課題解決に向けての取組を関係機関に知ってもらうために開催したところ、民有林関係者（県・市担当者、中国四国整備局職員、森林組合職員、森林共同施業団地協定者等）の方々、32名の参加がありました。

午前中、文化センターにおいて冒頭川村署長から、「今日の現地検討会で説明したことについて、一つでも他地域で活用して頂き、有意義な時間となるようお願いします。」と挨拶を行いました。

続いて総括森林整備官から、近畿中国森林管理局管内のシカによる森林被害・対策状況、首用くくりわな使用拡大、小林式誘引捕獲取組・普及等を説明し、その後の質問タイムでは、捕獲後の処理方法、止め刺しは誰がするのか等の質問がありました。



シカ被害状況等について説明する総括森林整備官

午後は津川山国有林に場所を移し、（株）野生鳥獣対策連携センター岡山支社の職員から4点について説明がありました。

1. ICT（情報通信技術）を利用した囲いわな

設置場所、ゲートの位置、電波受信の可能、電線の取扱（遠隔監視操作システム）



2. 獣道の見分け方

足跡等から獣道を推定



3. 首用くくりわな

立木の選定の仕方、シカの目線、シカの逃げ場を確保しての設置方法



4. 小林式誘引捕獲（足くくりわな）

わなの仕組み、設置の道具と底板、獣道から外して谷川に設置、周りの環境変化を説明
特に小林式のポイントについては

- ①わなの周りに障害物
- ②更にその周りにハイキューブ※を撒く
- ③足の置き場所を制限
- ④えさに集中したところを捕獲

等の説明がありました。



※緑の塊がハイキューブ（乾燥した牧草の塊）

参加者からは、バケツの高さ、設置してからの点検時期、止め刺しの方法、ハイキューブの交換時期・撒き方、同じ場所でもよいか、人間のにおい等の質問がありました。

最後に、小林式誘引捕獲を各職場各地域での情報発信をお願いし、検討会を終了しました。なお、小林式誘引捕獲についての詳細は和歌山森林管理署のホームページに掲載されています。



7月豪雨 民有林林道支援要請 結成！山地災害対策チーム

【森林整備課】

平成30年7月豪雨により、広島県においては、山腹崩壊や林道の路肩決壊等の甚大な被害が発生しており、現在、早期復旧に向けた対策に取り組んでいるところです。

このような中、近畿中国森林管理局では、広島県から、特に被害の多い東広島市及び呉市の民有林林道の災害発生箇所の現地調査や技術的助言等について支援要請を受けました。

このため、局管内の技術職員で構成する山地災害対策チームを編成し、派遣することになり11月26日（月）東広島市において結成式を行いました。



結成式の様子（右奥は広島県林業振興部長）

派遣期間は11月26日から12月7日まで行い、人員は延べ12人。民有林林道の被害箇所の測量や復旧工法の検討などを行いました。



東広島市、呉市の担当者を交えてのミーティング



被災箇所の調査の様子

森林共同施業団地で検討会 ～林業の成長産業化に向けて～

【三重森林管理署】

10月31日から2日間にわたり、三重県いなべ市の悟入谷国有林と桑名市内の会場において「林業の成長産業化に向けた現地検討会」を行いました。

検討会は、三重森林管理署、奈良森林管理事務所、和歌山森林管理署が主催し、(国研)森林研究・整備機構 森林整備センター中部整備局共催で参加募集を行い、近畿中国森林管理局、三重・奈良・和歌山・岐阜の各県及び三重県の市町村林務担当者や、水源林整備事務所、森林組合、林業事業体など私有林関係者等が、2日間で述べ186名(うち私有林関係者127名)参加しました。



三重、奈良、和歌山、岐阜の各県などから参加されたみなさん

1日目の悟入谷国有林では、三重森林管理署長から「私有林と国有林が連携した森林共同施業団地の取組が、循環型の林業を構築する何らかのヒントになればと考えている」と挨拶。民国連携の取組として、森林共同施業団地の概要、国有林・私有林での森林整備・木材生産・搬出状況等の説明、森林整備センターから簡易な路盤改良としての鉄鋼スラグ(鉄や鋼の製造工程で副産物として生成されるもの)の説明・施工実演が行われました。

また、複層伐箇所で、国有林のシカ捕獲事業、獣害対策などの説明を行い、近畿中国森林管理局の石田企画官から「林業事業体の生産性向上」について、私有林での優良事例の紹介が行われました。

2日目は、桑名市のNTNシティホールに場所を移し、森林整備センターから鉄鋼スラグを使用した簡易な路盤改良について補足説明、三重署からはドローンにより上空から撮影した森林共同施業団地の林道(大型トラック搬出)・中間土場(木材集積場)※、民国が連携した連結作業道の作設状況、複層伐の状況、獣害防護ネット設置状況の映像や、森林共同施業団地の取組の説明を行いました。

質疑では、森林共同施業団地での中間土場の設置基準、連結作業道を国有林内に作設する手続き、鉄鋼スラグによる路盤改良後に高性能林業機械により木材搬出が可能か等の質問が出されました。

参加者からは、民国連携に興味を持った、効率的な木材搬出・森林整備を検討したい、などの意見が寄せられました。



テレビ局の取材を受ける三重森林管理署長

※中間土場とは、搬出された丸太をいったん集積し、用材、合板、集成材、バイオマス燃料用に仕分けしたり、輸送効率を上げるため大型トレーラー等に積み替える等の目的をもって設置される場所

国有林モニター会議 開催 奈良県 高取山国有林にて

【企画調整課】

近畿中国森林管理局では、国有林に対する地域の皆様の理解を深めるとともに、双方向の情報・意見の交換を行い、一般の方からの御意見や御要望を国有林行政に役立てることで、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理経営を行うことを目的として、「国有林モニター事業」を実施しており、本年度は68名の方にモニターをお願いしています。

この度、モニターの方に国有林の現場を見学していただく「国有林モニター会議」を11月17日（土）、奈良森林管理事務所管内の高取山国有林で実施し、15名に御出席いただきました。

午前中は、昨年の台風21号による山腹崩壊箇所を見学し、奈良森林管理事務所長から施工中の林道復旧工事と谷止工等の治山工事について説明を受けました。参加者からは崩壊箇所を目の当たりにしたことへの驚きの声と、どのように復旧させていくかについて興味深く聞いていただきました。



復旧工事について説明する奈良森林管理事務所長

その後は、高取城跡に移動し、奈良森林管理事務所長から、高取城の概要と周辺国有林の説明がありました。

最近、高取城がテレビ番組に取り上げられ注目されていることや、「日本美しい森 お薦め国有林」にも選定されたことから、地域振興のために活用を図るとともに、貴重な森林を維持することが課題であることを説明しました。



高取山風景林を散策

意見交換会では、モニターの方々から、高取城からの眺望を確保するために、大径木を伐採すべきではないといった景観に関する意見のほか、林業の担い手育成やジビエ活用促進などについて提案をいただきました。



モニターのみなさんと意見交換会

モニター会議で頂戴した御意見等については、今後の国有林野の管理経営の参考とさせていただきます。

「高野山古事の森」見学会 からんさいとう ～伽藍西塔を見学～

【和歌山森林管理署】

和歌山森林管理署では「高野山古事の森育成協議会」と協力して11月10日（土）、紅葉が鮮やかな高野山で古事の森見学会を実施しました。

この見学会は、神社・仏閣等の貴重な伝統的建築物の修復に必要な大径長尺材等の供給を目指して平成16年に設定した「高野山古事の森」の活動の一環として行っているもので、文化財と森林の関わりについて、高野山内の貴重な文化財の見学を通して理解を深めていただくために、平成22年度から実施しています。今年度は、金剛峯寺の協力をいただき、普段、内部を一般公開していない伽藍西塔を見学しました。



伽藍西塔の見学

伽藍西塔は、弘法大師のご意志により887年真然大徳しんぜんだいとくにより建立されたもので内部に安置されている金剛界大日如来、胎蔵界4仏は金胎体両部不二の深義を表すとされています。現存する塔は、1834年（天保5年）に再建されたものです。

高野山の木造文化財の修復を行なっている和歌山県文化財センターの職員から、伽藍内部と内部に安置されている金剛界大日如来、

胎蔵界4仏の説明を受けながら拝観し、参加者一同その色彩の鮮やかさに感動していました。



中門修復の際使用した木の切り株

見学会の最後には古事の森で植林した高野六木（スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、アカマツ、コウヤマキ）の生育状況について説明を行い、見学会を終了しました。参加者からは、「神社・仏閣などの修復には長い年月をかけて育てた良質な大径材が必要なことがわかった。これからは見学会を続けて欲しい。」などの声が聞かれました。

和歌山森林管理署では、今後も引き続きこの見学会を通じて、文化財と森林の関わりや木材の良さ、大切さをPRしていきたいと考えています。



「高野山古事の森」での説明の様子

北陵中 職場体験学習会 (家族に爪楊枝のお土産)

【岡山森林管理署】

11月20日から22日までの3日間、津山市立北陵中学校2年生の職場体験学習として、山や木々が大好きな元気いっぱいの中学生2名が岡山森林管理署に来てくれました。

生徒たちには、防鹿柵巡視や間伐事業見学、そして、収穫調査を体験してもらいました。



資材運搬路や間伐状況の見学

収穫調査では、目視による樹高計測や樹種判定など難しい作業もありましたが、「スギは水をたくさん好むので、谷に植えると良い」「スギとヒノキの葉の形はこんなに違う」「スギの幹は何か青い」等、生徒たちは、体験学習のなかで習得した沢山の知識を総動員しながら頭をひねり、調査してくれました。

また、収穫調査後の間伐率等の計算作業では、樹冠率や保安林の伐採制限といった様々な資料や数値を見比べながら電卓をはじき、森林管理の考え方について、じっくり理解を深めたようでした。

最後に、収穫調査体験の合間に採取したクロモジの枝を用いて、爪楊枝製作を行いました。製作の下準備として職員がナタを使った作業をしていると、その様子を見つめる中学生たちはいつの間にか前傾姿勢になっており、

ワクワクした気持ちがあふれ出しているかのようでした。いよいよ製作作業が始まると、中学生たちは一生懸命に製作に取り組み、持ち手が短い子ども用爪楊枝や、柔らかな形状の優しい爪楊枝など、それぞれ個性あふれるクロモジ爪楊枝を製作してくれました。

中学生たちは完成品を手にしながら、誇らしげな顔で「家族へのお土産にする」と語ってくれました。



これを削って爪楊枝を作ります

この3日間の体験が彼らの心の片隅に少しでも留まり、大人になってからも林業や木材、木々や森林を愛する気持ちを持ち続けてもらえるよう、今後も普及啓発活動を邁進して参ります。



完成したクロモジの爪楊枝



シリーズ 『国有林 最前線！』

岡山森林管理署

～国有林材も地域林業の活性化に～

岡山県は西日本でも有数の木材産地であり、特に県北地域は木材集積、製材工場が立地しています。中でもヒノキは素材生産量が平成24年から5年連続日本一になるなど、全国的にも知られている国産材産地です。

岡山森林管理署は県北の津山市に所在し、岡山県下13市8町1村に所在する約3万2千haの国有林と約4千haの公有林野等官行造林地、計3万6千haの森林を管轄しています。

また、管内の国有林の多くが県北に分布しており、近畿中国森林管理局管内の国有林における素材生産量の約4分の1の約3万立方メートルを供給しています。

伐採した立木の中には、高付加価値の丸太となるよう、長尺材（6m通し柱）の採材にも取り組んでいます。

このように国有林として、主伐や間伐等を計画的に進めることは、地球温暖化防止への貢献はもとより、地域の森林・林業の活性化に繋がるものと考え取り組んでいます。



国有林材が並ぶ木材市場



積極的に間伐を進めています

奈良森林管理事務所

下北山・吉野森林事務所

首席森林官

高木弘康

私の所属する下北山森林事務所は、吉野郡下北山村にあり、奈良県の最南端に位置し、大峰山脈・台高山脈に挟まれた北山川流域を主体とした林業が盛んな地域です。

管轄市町村は上北山村・下北山村・十津川村の一部、五條市、高取町、明日香村、下市町、大淀町、吉野町、川上村、黒滝村、天川村の奈良県下1市4町7村、約7,320haの国有林を管理しています。

「世界文化遺産登録と世界文化遺産貢献の森林」

紀伊山地は、「吉野・大峰」「熊野三山」「高野山」と呼ばれる有名な三つの霊場とそれらを結ぶ「参詣道」があり、世界でも類を見ない資産として、平成16年7月に「世界文化遺産」に登録されました。これに伴い管内国有林（伯母谷、鳴川山、池郷、白谷山、伯母子）の一部区域を「世界文化遺産貢献の森林」として設定し、森林景観の保全、文化的景観の保全、森林の風致の保全を図る場として管理しています。白谷山国有林では、「森の巨人たち100選」に選定された「持経千年ヒノキ」と呼ばれる巨木（幹廻り5.3m、樹高25m）、その他ブナ、モミ、ツガ、トガサワラ、ナラやヒノキなどの巨木が見られ、付近には、天然記念物であるカモシカやツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ、サルなどの動物が生息しています。



国有林内を通る大峯奥駈道